

研究・調査報告書

報告書番号	担当
5 6	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>The association between alcohol and reflux esophagitis, Barrett's esophagus, and esophageal adenocarcinoma.</p> <p>アルコールと逆流性食道炎、バレット食道、食道腺癌</p>	
執筆者	
Anderson LA, Cantwell MM, Watson RG, Johnston BT, Murphy SJ, Ferguson HR, McGuigan J, Comber H, Reynolds JV, Murray LJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Gastroenterology. 2009 Mar;136(3):799-805. Epub 2008 Dec 3.	
キーワード	
アルコール、ワイン、逆流性食道炎、バレット食道、食道腺癌	
要 旨	
<p>目的： アルコール摂取は食道胃逆流症の症状を増悪させ、食道粘膜障害の原因となり、ひいては食道癌の遠因となる可能性がある。しかしながらアルコール摂取と逆流性食道炎、バレット食道、食道腺癌との関連を検討した報告結果は必ずしも一様ではない。</p> <p>方法： 逆流性食道炎患者 230 人、バレット食道を有する 227 人、食道腺癌患者 260 と頻度マッチングした一般集団対照群 260 例について、21 歳時および面接の 5 年前におけるアルコール摂取に関する情報を得た。交絡因子調整後に三つの病型と対照とを比較するためロジスティック回帰を用いて解析した。</p> <p>結果： 一般集団対照群のうち食道胃逆流症を報告したものはそのような症状の無いものに比べ面接 5 年前にアルコール摂取している可能性が低かった (オッズ比[OR]0.44、95%信頼区間 0.20-0.99)。面接 5 年前のアルコール摂取は、食道逆流症、バレット食道、食道腺癌のいずれとの関連も認めなかった (OR 1.26, 0.78-2.05 ; OR 0.72, 0.43-1.21 ; OR 0.75, 0.46-1.22)。ワインは逆流性食道炎と負の関係を認めた (OR 0.45, 0.27-0.75)。21 歳時点でのアルコール全消費量は逆流性食道炎と関連していた (OR 2.24, 1.35-3.74) が、バレット食道や食道腺癌との関連は認めなかった (それぞれ OR 1.06, 0.63-1.79 ; OR 1.27, 0.77-2.10)。</p> <p>結論： 成人早期でのアルコール消費は逆流性食道炎の発症につながる可能性がある。それ以降のアルコール摂取に関しては逆流性食道炎、バレット食道、食道腺癌のいずれのリスクとも明らかな関連を認めなかった。また、ワイン摂取はこれら 3 つの食道疾患のリスクを低減する可能性が示唆された。</p>	